

五十字劇評NO.70

言わせて！

今日の芝居

オペラ遠野物語

【20代】

▼体や音や光や影、台詞以外の表現の魅力が沢山詰っていて、「これぞ演劇だ」という力を目一杯浴びました。特に喜善の元から座敷わらしが去っていく場面は華やかで妖しく、その中にある名残惜しく寂しい気持ちや伝わって、感情がとても揺さぶられました。しかし、オペラということもあり、言葉が踊り過ぎていて、対話・会話には集中できず、登場人物達の心の動きや熱量みたいなものは、あまり見えなかったという印象でした。私はこの作品を柳田や母親、田舎の人々などの無意識なのか意図的なのか大人のズルい所に消費されるのかき乱される一人の若者として

の話をもう少しじっくり覗いてみたいと思います。それでも、「日本人どは何か」を私も一緒に探してしまおうくらいには物語に入り込んで観ていました。

「遠野物語」は人々の空想なのか、本当にあった事なのか。どちらであれ、きつと信じたその先で真実となつて、形作られていくのでしょうか。

人間ではない何かの存在は畏怖の念を抱きますが、時には心の拠り所になったり、自分を救ってくれたりします。でもやっぱり生身の人間に一番救われているって最後の水野と喜善を見ていたら思います。だから今日出会った不思議な世界はポケットに忍ばせて、現実と向き合っているかなくてはですね。信じていればずっとそばにいてくれますよね。私のあげたおまんじゅうも囁かれてるって、そんな気がします。

今の私に必要な舞台でした。素敵なお公演をありがとうございました。(女性)

【30代】

▼遠野の苦しいくらしが暮らしがが見え、それを受け入れるために

遠野物語が生まれたのかなと感じた。(男性)

【40代】

▼始まったとき少し心配しましたが歌と物語にひきこまれました。本も読んでみようと思つたのでよかったです。(女性)

【50代】

▼音楽も物語も良かったです。「遠野物語」読んでみようかな。(女性)

【60代】

▼マイクを使わない生演奏による生歌・生声、素晴らしい！「こんにゃく座」ファンになりました。(女性)

▼チェロとフルートの怪しい調べは、遠野のオドロオドロにピッタリの演出だった。深いテーマがあったのだろつか。「オペラとミュージカルの違い」を考えているうちに、終演となった。(男性)

▼あの遠野物語をストーリーに仕立て脚本にした長田さんは凄い！と思つていたが、舞台では歌と演出と演奏それぞれがお互いを邪魔し合つて

いたのかセリフが入ってこないし演奏の良さが伝わってこないしでイとこ無しの長い長い2時間40分だった。(女性)

▼次は？ワクワク!!地面は坂。障子戸の灯と影。場面転換の役者の動きただ、生演奏でセリフ聞き取れず残念。(女性)

▼こんにゃく座版ゲゲの鬼太郎。隙間から湧き出てくる「影」の演出に唸った。長田さんらしい豊かな創造性。私にとって名作！と言い切れる舞台だった。(男性)



「70代」

▼柳田・喜善・水野の現実の世界と遠野民話がからみあい、さらにアンサンブルの効果で幽玄な舞台でした。(女性)

▼以前から気になりながら読んだことのなかった「遠野物語」。それが芝居になってやって来ると聞いて、楽しみにしていた。「期待に違わぬ」ものだったが、わからないところがたくさんあって、しかし目を離せず、勿論最後まで観てしまった。神隠しに遭った娘が何年後に帰ってきた話が、切なくて悲しくて、いまだにふっと思ひ出す。何とか台本を読みたいものだ。(男性)

▼日本人の日々の暮らしの中での『内なる闇』があたたかな闇として良く表現されていたと思います。フルートとチェロのアンサンブルも印象的でした。(男性)

▼遠野地方の民話に出てくるザシキワラシ、カッパなどを一つの話につなげておもしろかったが、ちょっと長すぎる(性別不明)

▼素人考えですが今回の舞台設定は少しおかしいのでは。舞台右手にピ

アノ・打楽器などの生演奏を前にして私は音楽を聞きに来たのかと、中央・左側客席だと方言の苦手な私でもセリフと歌がわかったのではなかった。オペラは演奏と歌どっちが主役ですか？狭い舞台でももう少し使い方があるのではと思いました。(女性)

▼遠野物語の地を回ってきたことが思い起こされた。自然の中で生き苦悩する姿と逸話がうまくマッチしていた。(男性)

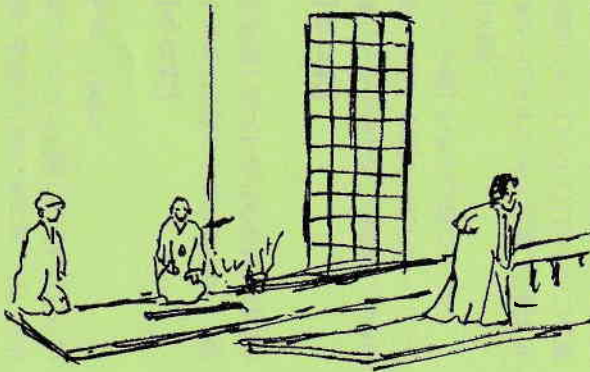
▼生演奏に聴き入り、ふっと芝居から遠ざかることもあった。遠野の風景や語りきかせのおばあさんのことを想い出しながら、もう少ししっかりと観たかったと思います。(女性)

▼期待以上に面白い遠野発日本のオペラ。祖母ノヨの口伝が佐々木喜善を育て、柳田国男の記録に繋がったとは。(女性)

「年齢性別不明」

▼どこか仄暗く幻想的な雰囲気の中、まとわりつく闇達を振り払いながらも現実の厳しさに苦悩する喜善が印象に残った。

▼遠野物語をオペラ？と不信をもつて見ましたが、だんだん世界に引き込まれて「なるほどね」とオペラにしても良かったと思いました。実は前回の『ネズミの涙』が私の中では一番くらいがっかり作品だったのです。今後はもっと期待してみます(笑)(性別・年代記入なし)



編集スタッフから

今回の舞台は観る人にとつて受け止め方が大きく異なる演劇ならではの作品でした。

初こんにゃく座だった私の遠野物語は、さすが長田さんと思えた芝居です。舞台の右半分を楽器スペースに使ってどうかという指摘もありましたが、私には自然な配置でした。メロディをなくした擬音に近いBGMは、場面の異様な緊迫感と登場人物の心情をあらわし、作品の核心に近いものでした。役者の本格的な歌声も見事。むしろ台詞は方言の聞き取りもあり、作者は重要視していなかったのでは。ただ細部に気になるところがあり、(例えば降らせた雪はそのまま？等)完成度で今一つの感がありました。ともあれ、可能性も伸び代も大いに感じさせてくれたこんにゃく座。次回出会う舞台が楽しみです。